

会長表彰

2012年(平成24年)6月27日(水)

会場：経団連会館

五十嵐 敏彦

(応用理学・建設・総合技術監理部門)



1. 略歴

技術士登録(H3) (社)日本技術士会入会(H3)
北海道技術士センター技術検討委員会委員(H11～H16)
北海道支部(現本部)地域産業研究会幹事・座長(H11～H23)
北海道支部(現本部)RS研究会教育分科会座長(H15～H17)
北海道技術士センター理事(H15～H18)
北海道支部(現本部)事業委員会委員(H17～現在)
北海道本部エゾシカ研究会代表(H24～現在)

2. 会長表彰を受賞して

この度、小学校以来約半世紀ぶりに賞と言うものをいただきました。ご推薦いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

ただ、聞くところによりますと、例年、100人近くが受賞される永年功労賞だそうで、選考された方の中には「辞退すんじゃないの?」と言った声もあったそうです。実際、柄じゃないしどうしようか迷いましたが、いただける物はありがたくいただく性分ですので、履歴書を賑わせていただくことにしました。ただ、夫人同伴を謳っておきながら自腹を切る余裕もありませんので、式典は丁重にご辞退申し上げます。それでも、私の受賞で会長表彰が身近に感じると仰る方も居られるので、良かったかなと思っております。

冗談はさておき、長年にわたり技術士会の活動ができたのは、皆さんのお力添えがあったからこそ。今後とも末永くご指導・ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます、受賞のお礼とさせていただきます。

大谷 諭

(建設・総合技術監理部門)



1. 略歴

技術士登録(H6)
(社)日本技術士会入会(H9)
北海道技術士センター事務局次長(H9～H12)
北海道技術士センター事務局長(H13～H18)
北海道支部(現本部)事務局長(H15～H22)
北海道支部(現本部)総務委員会委員(H15～H22)

2. 会長表彰を受賞して

この度、北海道本部のご推薦により、会長表彰をいただきました。ご推薦をいただいた本部長はじめ関係の皆様には深く感謝申し上げます。

平成9年から14年間事務局として技術士会の活動に参加させていただきましたが、この間大変多くの技術士の皆様とお知り合いになることができました。この人脈は私にとってとても貴重な財産になっております。

振り返りますと平成16年に札幌で開催された「第31回技術士全国大会(札幌)」のことが最も印象に残っております。本当に沢山の会員の皆様がボランティアでその企画、運営に自主的に参画していただき、大会を成功に導いていただきました。正に北海道の底力を見せつけた出来事でした。

平成25年には全国大会が札幌で開催されるようですので、私も微力ながら協力したいと思っております。今後とも、技術士会並びに会員の皆様のご発展を祈念いたしております。ありがとうございました。



1. 略歴

技術士登録(H6) (社)日本技術士会入会(H10)
北海道技術士センター青年技術士協議会幹事(H7～H12)
北海道技術士センター理事(H9～H18)
北海道支部(現本部)地域産業研究会幹事(H9～H24)
北海道支部(現本部)業務委員会委員(H11～H22)
北海道支部(現本部)幹事(H19～現在)

2. 会長表彰を受賞して

この度、日本技術士会北海道本部のご推薦を賜り、日本技術士会会長表彰を載いて参りました。ご推薦を賜りました本部長はじめ関係各位には心より御礼申し上げます。

日本技術士会には、北海道技術士センター理事や青年技術士協議会、地域産業研究会の皆様方に触発されて平成9年度に入会しましたが、その後の北海道支部(現本部)の幹事や業務委員などの活動も含めて、たくさんの技術士の皆様と交流を深めることができました。

特に、いろいろな専門分野の方々と活動を共にできましたことは、様々な知見や知識、知恵を得られたという意味からも貴重な財産であり、現在の自分があるのは皆様方のお陰だと思えます。ありがとうございました。

これからも、日本技術士会の発展と技術士の地位・知名度の向上に、寄与・貢献して行くことができましたら幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。



1. 略歴

技術士登録(H9)
(社)日本技術士会入会(H10)
生物工学部門北海道地域幹事(H15～現在)

2. 会長表彰を受賞して

ご推薦賜りました生物工学部門の幹事の皆様、サポート頂いております北海道本部会員の皆様に御礼申し上げます。

生物工学部門は、人数は少ないがメンバーの若さが特徴です。例会には技術士補の方々の参加が多いのも特徴です。折しも2012年のノーベル賞のiPS細胞も再生医療もこの部門の分野です。開発品は超高付加価値商品が多く、日本の産業として重要なターゲットです。特許や学術論文と商品が近い距離にあるのも特徴です。日進月歩の技術をキャッチアップし、オリジナル技術へと高めるやりがいのある競争の世界です。一方で、開発の期間が長い、リスクも高い、などの特徴もあります。

本年から「生物工学部門北海道会」と名付けた集まりを開始し、4半期ごとに集まりを持っております。まだ人数は10人程度と少ないですが、北海道本部事務局からは親切な配慮を頂き感謝しております。

総合技術監理は、大いに役立っております。リスクマネジメントの考え方は、日本で切実に必要なもので、これを基にした決断が必要です。食品安全で用いられるHACCPもリスクマネジメント法であり、総合技術監理と共通基盤に立っています。未取得の方には、是非勉強をお勧めしています。